

2023年度 こども園評価書

堺市立 共愛 こども園

<p>教育・保育理念</p> <p>・自分も友だちも大切に作る心の育成 ・学びの芽の育成 ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成</p>

<p>2023年度重点目標</p> <p>・健康でしなやかな心と体を育てる ・人の話を聞く力、自分の思いを伝える力、人の気持ちに気づく力を育てる ・子どもが主体的に遊び、ときめき、ひらめき、イメージを大事にした教育・保育を進めていく ・小学校、中学校、保育園、こども園及び関係機関などが連携し、学びと育ちにつなげる ・保護者と一緒に子どもの成長を喜び合い、ともに子育てをしていく</p>
--

<p>重点項目</p> <p>「わたしもだいじ あなたもだいじ みーんなだいじ」を軸に子どもが主体的に遊び仲間をくぐって自己肯定感を育む。また様々な家庭状況や保護者の思いを理解し寄り添いながら子育て支援の充実を図り子どもの発達と学びを保障する。</p>

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
人権を大切に作る心育てる		・一人ひとりの思いを受けとめ、安心できる環境のもと自己肯定感を育てる ・教育・保育の中で、一人ひとりの違いを尊重し合あい、人権を大切に作るクラス運営を行う	A 乳児は育児担当制を行い園児の思いに寄り添い、丁寧に関わり愛着関係を築いてきた。全体としても園児の思いに寄り添い一人一人の個性や違いを尊重し、各々に応じた援助をしながら園児同士がお互いを認め合える関係づくりを大事に取り組んできたことで、安心して自己発揮する姿が育ってきている。	A 職員が共通目標として子どもへの関わりを意識し、安心できる場を作っている。これからも大事に取り組んでほしい。
からだを健康に育ててやる気な心と心か	・『早寝・早起き・朝ごはん』を推進し、生活リズムの大切さと遊びを通じた経験の重要性を伝え適正な登園時間を進める ・毎朝のエアロヨガで気持ちの安定と体ほぐしをする ・散歩や戸外での遊びを通して体を存分に動かし、積み重ねの中で体力づくりに取り組む	・家庭状況を理解し連携しながら、子どもが安心できる心地よい居場所になるように努め、生活リズムが整うような働きかけをする ・毎日の生活の中で、必要な習慣を身につけ、自立心(自分でする力)を育てる ・食育などを通して食事の大切さを学び、食べることが大好きな子どもに育てる ・体ほぐしを毎日行うことで手足をしっかり使い、リラックスしながら姿勢を保てるようにする ・発達や能力に応じてバランスよく全身を使いながら体を動かす楽しさを味わう ・自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達を促す	A 様々な家庭状況があることを理解しながら家庭と連携・助言し、生活リズムが整うよう働きかけてきた。園児には年齢に応じた保健指導で生活習慣の大切さを伝えることで興味を持って取り組めるようにし、特に幼児は「早起き・早寝・朝ごはんカレンダー」の取り組みで楽しみながら保護者と一緒に生活リズムを考える機会となった。園での毎日の生活リズムや活動の流れはできるだけ変えず、丁寧に援助し「自分でやれた」経験を積み重ねることや、幼児は毎日の振り返り会で次の日の活動を知らせ、見通しを持ち活動を楽しみにすることで、生活習慣・リズムを身につけ自立心が育まれてきている。食育では、食材の紹介や菜園活動、クッキング活動を通して、野菜に興味関心を持ち、育てた野菜を目の前で調理したり、給食やおやつに入れてもらったりすること、栄養指導等を行ってきたことが意欲をもって食べる姿に繋がっている。 毎日のエアロヨガ、リズム遊び、散歩、年齢に応じた運動遊びを積み重ね、体を動かして遊ぶことを楽しみながらバランスよく全身を使い、しなやかな体づくりを行ってきた。その結果受診するような怪我が減少した。	A 小学校での取り組みと重なる部分が多く、継続して進めることで子どもたちの育ちを促していきたい。 A 早起き早ね朝ごはんカレンダーの取り組みが各家庭の話し合うきっかけとなり、保護者と一緒に進めることができるのが良いと感じた。睡眠が心と体の健康に深く関係しているため、生活リズム・習慣の大切さについて、子どもと保護者の理解が進むよう、続けて取り組んでほしい。色々な活動は感染症に留意して進めてほしい。
くのを力人 力気伝、の を持え自話 育ちる分を てに力の聴 る気、思 くづい	絵本やお話しを通して言葉の獲得、豊かな想像力(イメージする力・心情のみよと)を育てる 安心して大人との関係の中で話を聞いてもらううれしさを感じられるようにすることで、自分の思いを伝え、人の話を聞く力を育てる	・絵本やお話しをとおして豊かなイメージを持ち、言葉に対する感覚が養われるようにする ・ストーリーと自分の経験を結びつけたり、友だちと共有したりしながら表現を楽しむ ・思いや話を聞いてもらうことの心地よさを感じ、自分の思いをしっかりと伝えられる力を育てる ・会話を楽しんだりしながら人の話に興味を持ち、聞く力を育てる。また友だちと一緒に嬉しい気持ち、楽しい気持ちを共有したり、悲しい気持ちに共感したり人の気持ちに気づく	A 毎日絵本に親しむ時間を設け、絵本の世界を楽しみ、乳児は絵本の中の言葉を真似たり知っているものを言葉で知らせたりしている。年齢が上がるにつれ、自分の経験と結びつけて、友達ともイメージを共有しながら表現し、登場人物の心情も読み取り、ごっこあそび、劇へと発展して楽しむことができた。 A 園児が安心して話ができるよう職員が園児の話や話を聴くことを大切にできた。また、人前で話す機会を意識してつくり、一人ひとりの意見を話したり聞いたり話したりする経験や、職員が仲立ちとなりお互いの思いを伝えあう経験を積み重ねてきたことで、自分の思いを伝える園児が増えた。まだまだ自分の思いが先にたつ場面もあるが、4、5歳児では相手の思いに自ら気づく力も育ってきている。	A 乳児クラスでは担当制で保育していることで、子どもの少しの変化に気づいたり、話をじっくりきいたりできる場所がよい。その経験がその後の友達との関わり方に生きていく。子どもたちが安心して話せるのは心の育ちに大切なことで引き続き取り組んでほしい。「聴く」ということにこだわって小学校でも取り組んでいるので、継続して取り組む大切さを感じた。
進しひ遊子 めたらびど てため、も い育きとが く、をき主 保大め体的 育事きに、に	「みたい」「しりたい」「やってみたい」「なんでもかな」等遊びの中で感じられるようにし、思考力・理解力を養う(ICTの活用もおこなう) ・自然と触れ合う遊び、菜園活動、集団遊び、砂、水、泥遊びなど日々の遊びを集中して楽しめるようにする	・「自然」をテーマにした遊びを通して、ときめき、ひらめき、イメージを大切に子ども主体の遊びを展開し、様々な経験の中で不思議に思ったり試したり挑戦する中で、考えようとする力や理解する力を育てる ・実体験を通して、様々な感覚を体で味わったり、遊びの中のルールを知ったりしながら、興味のある遊びを存分に楽しむ	A 昨年度に引き続き「自然」をテーマに1年間を通して様々な遊びに取り組んだ。砂、水、花、野菜、果実、葉っぱ、木の実、木々、虫等園内の自然に触れ、同じ素材でも季節によって形態やにおい、感触が違うことを五感を使って感じ、自然の不思議さ、それぞれの変化や生態に興味を持ち、発見したことを職員や友達と報告しあったり、知りたいことを絵本や図鑑で調べたり、自然物を制作に利用したり、表現遊びに発展する等意欲的、主体的に遊んでいた。菜園活動では世話をし、収穫し、食べる、という経験からの学びはもちろんのこと、うまく育たなかった経験からも学びがあった。これらの活動を通してこうした変化が起きるのとは？と予測したり、こういう理由でこうなったのは？と考えて言語化したり等考えたり理解を深めたりする力を育むことにつながった。	A 園内の「自然」に触れることが、子ども達が多くの気づきや学びに繋がっている。学んだことを友達と共有する経験も大事にしている。それらの取り組みは、1年生の生活科に繋がっている。 A 5歳児に自転車教室も経験させてあげてほしい。
育が関園小 ち連係・・ に携機こ中 つし関ど学 な、なも校 げ学ど園・ るび地及保 と域び育	2園交流(交流、菜園活動他)・小保交流・西の子まつり参加・出前授業の実施・体験学習の受け入れなどを行う 保幼小合同研修・公民区別研修・教育保育施設交流会・実践部会・キャリアアップ研修に参加する 老人福祉施設訪問・お話し会・人権ふれあいセンターでの人権研修(フィールドワーク)等を実施する	・保育園・こども園の園児と小、中学校児童との交流、小学校教員との意見交流等、連携を通じて教育・保育の質の向上を図り、円滑な接続につなげる ・研修を通して学びを深め、乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し、日々の教育・保育を実践する ・可能な形で交流や連携を取り合い、地域での関係を深め、地域の方の協力を得ながら、堺の歴史や文化、地域の特性を生かした教育・保育を実施する(Webの活用含む)	A 感染症対策が緩和され、2園交流、小保交流、小学校5年生・中学校3年生の体験学習の受け入れ、老人福祉センターでの交流、お話し会等の園児交流を実施することができた。地域の多くの方々と交流し、優しくかわってもらい嬉しい経験をするのは、園児の豊かな心の育ちに繋がっている。出前授業、意見交流、小学校への授業参観等職員交流も行い、連携して地域の子どもの育ちを繋げていく。各種研修で学んだことを日々の教育・保育に積極的に取り入れるようにし、現在の園児の姿とこれからの育ち、学びにつながるよう考えて指導計画を立案し実施した。公立園として公民区別研修、教育・保育施設交流会を企画し、関係機関や民間園と互いの教育・保育力を高めあえるような意見交流を行うことができた。地域のことを学ぶため、異動者は人権ふれあいセンターの訪問とフィールドワークを実施し、理解を深めた。	A 小学校とこども園の連携で、子どもの様子がより理解できるというよい関係が築けている。小学校の「西の子まつり」で交流した経験が「あじさいまつり」に生きていくことがよくわかった。地域との情報共有をもつてできるようになり、地域の取り組みを連携してすすめられたらより良いと感じる。地域の方との関わりからの学びはすごく多いと思うので引き続き取り組んでほしい。
いとも保 くもの護 に成者 子長と 育を一 て喜緒 をびに し合子 いで	タッチビュー・フォトニュース・フォトフレーム・おたより・行事・個人懇談・送迎時のコミュニケーションで教育・保育及び子どもの姿を伝える ほっこりくらぶ・きらきらクラブの実施・園庭開放・サロン・ホッと預かり、リフレッシュ預かり等での保育の提供、子育て支援課・保健センターとの連携等を行う	・日々の教育・保育を保護者に見える形で発信し、子どもたちの様子をともに共有できるようにしていく ・可能な範囲で地域の関係機関や団体等と連携し、協力を図り、地域等の保護者に対して適切な支援を行う	A 園児の様子を連絡帳・キッズビュー、送迎時、個人懇談等で保護者に丁寧に伝え、家庭での様子や保護者の思いもわかしながら、信頼関係を築きともに園児の成長を見守ってきた。フォトフレーム、保育参観、フォトニュースやおたより、クラス懇談会などを活用し、活動のねらいや活動がどう成長につながっているかを園児の変化と合わせて知らせる等教育・保育内容がより伝わるように工夫し、園児の育ちを保護者と共有してきた。今年度より取り入れられたキッズビューについては、今後より活用できるよう考えていきたい。育児相談・園庭開放・育児講座・堺区公立園での親子教室の実施の他、関係機関が実施する親子教室やイベント、地域のサロンに職員が参加し、保育の提供や子育て相談を行った。保護者に地域の相談機関等を紹介して繋ぐ等地域と連携して子育て支援を行った。次年度はクラスの職員も地域への子育て支援に関わる機会を増やしていきたい。	A ICTの導入で、保護者の戸惑いはあったかもしれないが、写真付きで様子を伝えられるのは良いと感じたので、子どもたちの様子がより伝わるように活用していった。 B 子どもたちの育ちの中で多くの方々とでの会いは大切であるので、地域と連携した子育て支援を続けていってほしい。
質員 向の 上資	研修会参加・園内研修・園内公開保育・チームアップ研修(人権研修)・各委員会・報告会・職員会議・特別支援保育会議・家庭支援会議等を実施する	・研修などを通して、教育・保育実践を振り返り、質の向上を図ると共に専門性を高める ・理念や方針、教育・保育課程、マニュアルなどについて、職員同士が共通理解する	A 理念や方針、教育・保育課程、マニュアル等年度初めに確認したうえで、園児の姿や教育・保育のねらい、内容、園児への関わり方、手立て、大切にしたいことなど毎月の会議で共通理解し、教育・保育を振り返り、より良い方法を考えて教育・保育を進めた。園内公開保育で他クラスの保育実践を見て意見交流して学びあったり、各種研修に参加して学んだりすることで個々の専門性を高めるとともに、学びを日々の教育・保育に活かすことができた。	A 職員が様々な研修を受け、それを共通理解して、教育・保育に活かしている。今後も色々な研修に取り組む、専門性を高めたい。
識機 の管 向理 上意	災害訓練・不審者訓練・交通安全教室・リスクマネジメント委員会・安全点検・重大事故訓練・心肺蘇生法・AED訓練などを実施する	・危険な場所や遊び方、災害時の避難の仕方など、必要な約束事について学び、安全に気をつけて行動できるよう遊びや生活の中で伝える ・リスクマネジメント委員会にて事故防止やリスクについて検証し安全、安心な環境づくりを行う	A 室内遊びや遊具の使い方など園児と一緒に確認したり、ケガにつながりそうな遊びや行動について、園児とともに考える機会を持つ等安全教育を行った。災害訓練や不審者訓練等、積み重ねることで園児もマイク放送や職員の手立てを聞いて意識して行動できるようになってきている。リスクマネジメント委員会では、ケガの事故報告やヒヤリハットから検証と対策を行い、事故防止のために対応してきた。災害訓練・不審者訓練・重大事故訓練では役割と連携の確認を行い、その都度振り返り、改善点をマニュアル改訂や準備物追加等に活かすようにしている。	A 子どもたちが予測できない動きをすることもある中で、先生方の対応で、受診するような大きな怪我が減少している。災害時の避難については、小学校と避難計画を確認しあい、安全に避難できるよう進めてほしい。

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
生活リズムを整え、一人ひとりの子どもが安心して過ごし、安定した気持ちの中で主体的に生活や遊びをする。	一人ひとりの個性や状況を理解し、保護者の思いに寄り添いながら、子どもの生活や遊びが保障できるよう一緒に適切な対応をしていく。生活リズムについて保護者ともに行えるような活動を行っていく。安心して生活や遊びができるように思いを受けとめ、子ども自らが意識し、主体的に行動できるよう関わっていく。
子どもたちが主体的に遊び、ワクワクしたり、ときめいたり、イメージできる教育・保育について学び子どもの自己肯定感を育む実践をしていく。	次年度も「自然」をテーマに、子どもの発見に気づき、子どもが主体的に遊ぶ中で自己肯定感を育むことに繋げられるよう、環境づくりや方法について、参加した研修や園内研修で学びを深め職員で共有しながら実践していく。活動の中で子どもが気づきを発信したり、友だちの意見に耳を傾けたりする機会を大事にし、より深い学びに繋がるよう働きかけていく。

園長より
新型コロナウイルス感染症への対応が緩和され、インフルエンザの流行もある中でどこまで緩和していくかを話し合いながら行事や教育・保育を進めてきました。園では「わたしもだいじ、あなたもだいじ、みーんなだいじ」を軸にした教育・保育を大切にしています。自然をテーマにした実践、体づくりや生活リズム・習慣の確立にむけた取り組み、お互いの思いを伝えあい考えあうことを大切にしたい取り組み等をする中で、子どもたちは、主体的に活動する力が育ってきています。また、教育・保育内容の研修、人権研修、心肺蘇生法、園児・保護者対応等様々な研修を実施し、職員も資質向上に取り組んでいます。そして、今年度はしおあなの森こども園や小・中学校との交流、老人福祉センター訪問、お話し会、育児講座等を再開し、地域の方々と交流することができ、地域との繋がりの中で学び育つことの大切さを改めて実感しました。次年度も、一人ひとりを大切にするとともに、人と人が繋がりがいい、認め合い共に育ちあうことを大切にしながらよりよい教育・保育ができるように職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。保護者の皆さまには、今年度も園の運営にご理解とご協力をいただきありがとうございます。